

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 24 日現在

機関番号：37123

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20592530

研究課題名 (和文) 看護学生の知識の構造化を目指した複数判断基準活用のためのカリキュラム開発研究

研究課題名 (英文) A study to curriculum development structuring knowledge of nursing student using several criteria

研究代表者

石田 智恵美 (ISHIDA CHIEMI)

日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・講師

研究者番号：50352349

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護教育学 カリキュラム開発

## 1. 研究計画の概要

本研究では、看護学生が看護問題を解決するために必要な、複数の判断基準を獲得させ、活用できるような思考トレーニングを実施する。具体的には、看護大学の学部生を対象として、専門基礎科目（人体の構造・機能など）で獲得した知識（ルール）を看護学演習や実習で積極的に活用させるような思考トレーニングを実施する。獲得された判断基準が、看護実践に活用されているか否かの確認および、判断基準を拡大するために、卒後 1 年目、2 年目を対象として、判断基準活用のための思考トレーニングを継続して実施する。

## 2. 研究の進捗状況

研究目的・目標に沿った進捗状況は以下のとおりである。

(1) 看護学生が看護問題を解決するために複数の判断基準を活用できる。

①学部 1 年次生および 2 年次生…基礎看護技術の講義・演習において、専門基礎科目（人体の構造・機能など）のメカニズム（ルール）に関する知識の獲得状況を事前課題で確認し、知識を使わせるような発問・応答を取り入れた教授活動を実施している。講義・演習のまとめで再度メカニズムを確認することで、学生の知識どうしが結びついている感想がみられている。

②学部 3 年次生…看護学実習において、受け持ち対象者の情報の分析や将来の予測をする場合に、講義・演習で獲得されたルールを適用させ、看護問題の特定に結びつくような指導を行っている。学生にとって思考の整理につながり、看護計画・実践に結

びつけている。

③学部 4 年次生…複数のルールを組み合わせ、優先度を決定するための判断基準に関する授業を行い、総合実習や卒業研究で適用させている。

(2) ラセン型カリキュラムを用いた問題解決のための思考方略を開発する。

①学部生…1 年次から 4 年次で継続して行われる看護学演習・実習において、異なる場面で同じルールを適用させ、ルールの適用を習慣化させる。年次が進むにしたがって、事例課題を典型例から例外例へと進め、ルールの適用範囲についても理解させるような教授活動を行っている。

②卒後 1 年目・2 年目研修…平成 17 年～19 年度の科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究課題番号 17592228 の成果に基づいたタスクマネジメント研修を、卒後 1 年目・2 年目の看護師および助産師を対象として、年 2～3 回実施している。各回の研修結果を評価し、次の回の研修課題を改善しつつ進めている。平成 21 年度より、卒後 1 年目研修時にプリセプター（卒後 1 年目を個別に指導者する担当者）をオブザーバーとして配置することにより、グループワークが効果的に行われている。

## 3. 現在までの達成度

③やや遅れている

(理由)

卒後 1 年目、2 年目の思考トレーニングの研修は、ワークシートを用いて行う。毎回の研修終了時に評価し、対象に適した課題になるように課題を微調整し、ワークシートの内

容をブラッシュアップしている。また、卒後1年目研修では平成21年度からプリセプターを配置することにより、グループワークが効果的に行われると同時に、プリセプターが卒後1年目の思考の状況が確認できるようになり、指導にも反映させている。これらの研修に関しては、当初の計画以上に進展している。しかしながら、学部生に対する思考トレーニングは、計画どおりには進んでいるとは言えない。講義・演習は一斉授業のため、個人の知識構造に直接関わることは難しく確認できにくいためである。一方、実習では教員が学生に対してマンツーマン指導するため、個別の知識構造を推測・確認することが可能である。しかしながら、効果の測定までは至っていない。

#### 4. 今後の研究の推進方策

卒後1年目、2年目に対する思考トレーニングは、毎回の研修目標が達成され、定着しつつある。そのため、今後も部分的な改変のみで継続して実施していく予定である。一方、学部生に対する思考トレーニングは、講義・演習で部分的に取り入れ、実習で学生の思考を確認しているのみである。思考トレーニングを集中して実施しているわけではない。今年度は、4年次の統合実習（総まとめの実習に位置付く）前に思考トレーニングを実施する計画を立てている。その準備として、学部生の思考トレーニング用のワークシートを作成予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計0件）